

【プロジェクト経緯】

日本で最初に朝日が昇り、半島を海で囲まれている地形から、夕日が海へ沈んでいく姿まで見ることができる本土最東端の街、根室。そんな根室の文化の一つ、それが「ジャズ」である。

これまで、日本を代表する数多くのジャズプレイヤーが根室でコンサートを開催し、中でも、1976年日野元彦の「流氷コンサート」はレコード化され、70年代の日本人ジャズレコードを代表する1枚となっている。また、70年代から80年代にかけては、雑誌「スイングジャーナル」に毎月のように根室の記事が掲載され、NHKなど多数メディアにも取り上げられた。こうして、根室は、全国のジャズファンにとって刺激的な存在となり、「ジャズの街・根室」が生まれた。

では、この文化が誕生したきっかけは何か。それは、たった5人の若者による「ジャズを根室に広めたい」という熱い想いであった。【地理的な最果てであっても、文化的な最果てにあらず】をスローガンに、1965年、ネムロホットジャズクラブが結成され、1978年には、活動拠点としてジャズ喫茶「Satin Doll サテンドール」がオープンした。全国のジャズファンにスイングと潮風のコラボレーションを届けることで、多くの人々を根室に呼び込み、その活動が認められ、根室市文化奨励賞、文化賞、そして、北海道地域文化選奨特別賞を受賞している。

「ここを目指してきました。」「昔、根室に住んでいた時によく来ていたんです。」遠路はるばる足を運ぶ者がこの40年間跡を絶たない。しかし、かつて日本の至るところにあったジャズ喫茶は徐々に姿を消し、その存在自体が貴重となっている今、数々の歴史を刻んできた「Satin Doll サテンドール」も、店主の高齢化により事業の継続が困難となってきている。

そこで、この存続の危機にあるジャズ文化発信拠点とその文化的価値、何よりも【地理的な最果てであっても、文化的な最果てにあらず】という根室の若者たちが抱いた熱き想いを遺し伝えるため、根室への移住を望む起業希望者を「地域おこし協力隊員（根室市 Jazz の街 PR 推進員）」として全国から募るとともに、「クラウドファンディング型ふるさと納税」を活用し、この取組みに共感する全国の方からふるさと納税を募り、起業希望者に対し事業立ち上げの初期投資経費等を支援する一大プロジェクトが立ち上がった。

ジャズが生まれたとされている1900年頃のアメリカ ニューオーリンズは移住者の街であり、多種多様な人種が集まることによって化学反応が起こり、新たな音楽・文化が多数誕生した。消えかけている根室のジャズ文化が、移住者の新たな視点や発想により、磨かれ発信されていくことで、根室に新たな人を呼び込み、地域が文化によって活性化していく。この大きな挑戦が【最果ての地 根室】でスタートする。